

海外観光旅行の現状 2019

<好調な日本人の海外旅行と旅行者の姿>

○2018年の日本人海外旅行者数は過去最高の1,895万人。19年5月累計も9.0%で推移。20代男女の出国率が伸長。特に前年伸び率が高いのは20～24歳女性(40.5%、115.5%)で、同年代の男性の2倍以上の出国率(法務省出入国管理統計)

○18年および19年1～6月に海外観光旅行をした人ほど、年内に再び海外観光旅行をしたい意向が高い。

○今年のGWに海外観光旅行を経験した人の、年内の旅行意向は77.6%と、1～6月に旅行した人全体より高い傾向。

○申し込みの流れは、「相談から申込みまですべてネットを利用(48.2%)」、「相談から申込みまですべて旅行会社店舗を利用(31.8%)」。18～29歳男女のみ「相談から申込みまですべて旅行会社店舗を利用」が逆転。年齢が高いほどネットで完結

(株)JTB総合研究所(東京都港区 代表取締役 社長執行役員 野澤 肇)は、「海外観光旅行の現状 2019」の調査研究をまとめました。当社は生活者の消費行動と旅行に関する調査分析を多様な視点で継続的に行っています。

海外渡航が自由化(1964年)され今年で55年です。自由化当時の日本人の海外旅行者数は約8,000人でしたが、2012年に初めて1,800万人を超えました。その後旅行者数は減少し15年まで低迷していましたが、18年は過去最高の1,895万人(前年比6.0%増)、19年は1～5月累計で802万1,400人(前年比9.0%)で推移し*、「20年2,000万人」の目標達成が視野にはいってきました。 *日本政府観光局発表

当社の昨年と同調査および法務省の出入国管理統計では、これまで海外旅行をけん引してきた団塊世代の多くが70代になり海外旅行を卒業し始め、消費の世代交代が海外旅行で始まっていることが分かりました。一方、若者は旅行をしないイメージがある中、実際は今の若者であるデジタルネイティブと言われるミレニアル世代およびその下の世代のポストミレニアル(ゼネレーションZ)世代の出国率が高く、旅行をけん引する存在になりつつあることが分かりました。しかしながら、日本人の人口は10年から減少に転じ、18年まで161万人減少しています。足元では好調でも将来的には日本人の海外旅行市場は縮小へと向かわざるを得ません。

本調査では昨年に引き続き、18年および今年前半にかけての海外旅行の現状を把握しながら、市場の新しい主役である今の若い世代の旅行の特徴を捉え、より多くの人々が海外旅行に出かけるにはどのような環境が望まれるのか考えます。

【調査概要】

調査方法：インターネットアンケート調査

スクリーニング調査対象者：全国に居住する18～79歳の男女30,000人へのインターネットアンケート調査

本調査対象者：スクリーニング調査対象者の中で、2018年1月以降2019年6月までに海外旅行（ビジネス旅行、親族・友人訪問も含む）をした人 2,060名

調査期間：2019年6月12日～6月14日

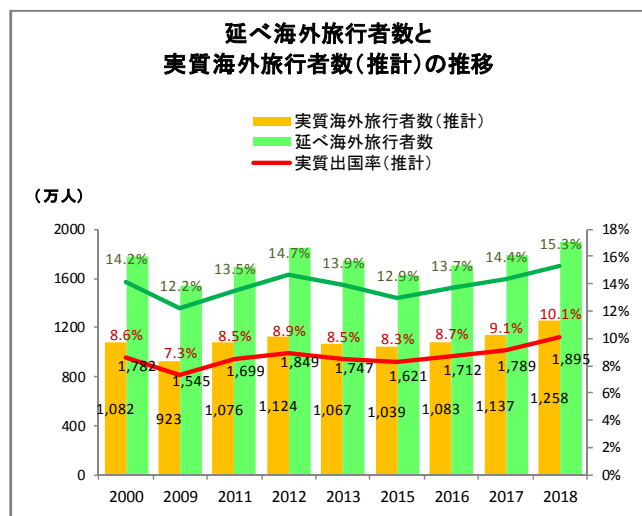
【日本人海外旅行者数の推移】

1. 18年の実質海外旅行者数1,258万人、実質出国率は10.1%と過去最高。旅行した人の数全体が増加

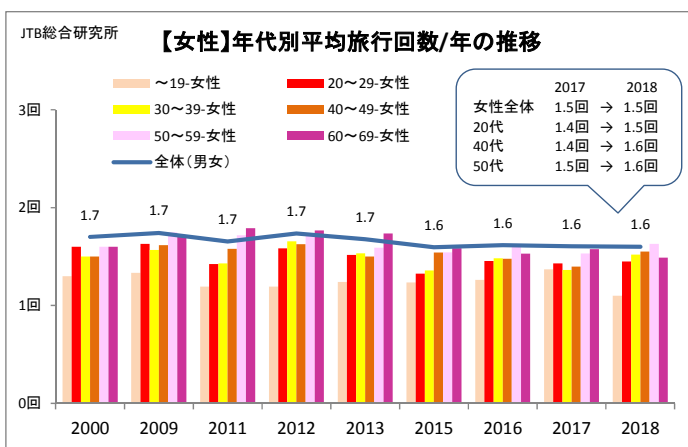
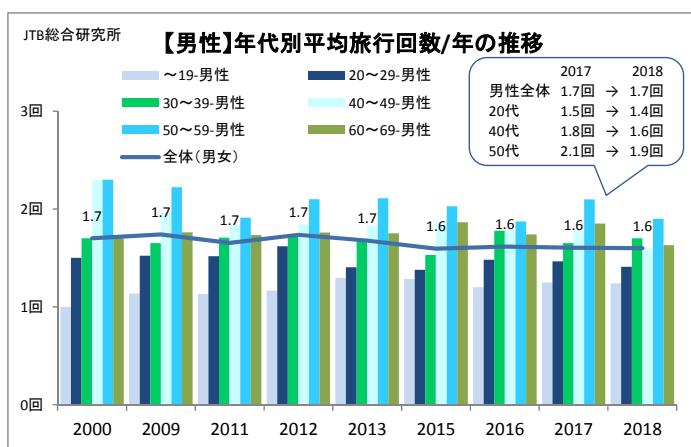
法務省が発表している日本人の海外旅行者数は延べ人数です。近年の旅行者数の増加は、一人当たりの旅行回数が増えたことによるのか、旅行した人の数全体が増えたことによるのか、人口減少が進む中での市場規模の変化を把握するために、「実際に海外旅行に出かけた人の数（実質海外旅行者数）」、「実質出国率」、「1年間の一人当たりの平均旅行回数」を当社の「海外旅行実態調査」をもとに算出しました。2018年の実質海外旅行者数の推計は1,258万人（延べ出国者数は1,895万人）、実質出国率は10.1%（延べ出国率15.3%）となり、いずれも昨年を上回り過去最高となりました（図1）。1年間の海外旅行者一人当たりの平均旅行回数（ビジネス含む）は、1.6回と15年から変化はなく、その結果、海外旅行をした人全体が増えていると考えられます。

平均旅行回数について性年代別に見てみると、男性については18年の全体は1.7回、17年は1.7回でした。前年と比較し、20代、40代、50代男性の平均回数が減少しました。女性については18年が1.5回で17年も1.5回で、20代、40代、50代の女性の平均回数が増える結果となりました（図2）。

（図1）述べ海外旅行者数と実質海外旅行者数(推計)の推移



（図2）性年齢別平均旅行回数/年の推移



**2. 出国者数の前年比が高い層は20～24歳女性(115.5%)、15～19歳女性(114.9%)。65～69歳男性は減少(96.5%)
 出国率が最も高かったのは20～24歳女性(40.5%)で、同年代の男性(18.4%)の2倍以上を記録**

現在、海外旅行に積極的なのはどの層なのでしょう。18年の出国者の年齢を5歳毎に区切って見てみます。前年比が最も高かったのは、20～24歳女性(115.5%)でした。出国者数も1,171,455人と女性の中では最も多く、出国率は40.5%で同年代の男性(18.4%)の倍以上となり、いかに18年は、若い女性が海外旅行に意欲的だったかがわかります。20～24歳の男性は561,928人と女性の人数の半分以下ながらも、対前年比は110.3%と、女性ほど勢いはありませんが、男性の中では70歳以上の111.4%に次いで2番目に高い伸率となりました。また25～29歳の男女も共に増加傾向だったことから、若い世代に積極的な動きが見られると言えるでしょう。全体で最もボリュームが大きかったのは、45～49歳男性1,269,893人(前年比102.7%、出国率26.6%)でした。この年代はビジネスでの渡航も多いと考えられます。

60歳以上のシニア層については、65～69歳男性のみ前年より出国者数が減少(前年比96.5%)していますが、65～69歳女性もほぼ前年並みで、男女とも他の年代に比べて伸びない結果となりました。ただしこの世代の出国率は男女とも上昇しており、人口ボリュームの多い団塊世代の多くが70歳以上に移ったからといえます。70歳代以上は前年より増加しました(表1、2)。

(表1)18年の性年齢別 日本人出国者数

	男性		女性		総数	
	旅行者数(人)	前年比	旅行者数(人)	前年比	旅行者数(人)	前年比
0～4歳	150,096	103.3%	146,169	103.5%	296,265	103.4%
5～9歳	188,118	105.2%	184,859	105.6%	372,977	105.4%
10～14歳	183,701	108.7%	198,587	112.9%	382,288	110.8%
15～19歳	294,901	110.1%	478,240	114.9%	773,141	113.0%
20～24歳	561,928	110.3%	1,171,455	115.5%	1,733,383	113.8%
25～29歳	670,346	105.7%	977,485	110.1%	1,647,831	108.3%
30～34歳	822,831	101.2%	772,000	103.9%	1,594,831	102.5%
35～39歳	963,244	101.5%	646,082	104.7%	1,609,326	102.8%
40～44歳	1,144,380	100.1%	657,435	103.8%	1,801,815	101.4%
45～49歳	1,269,893	102.7%	708,535	109.5%	1,978,428	105.0%
50～54歳	1,182,226	104.2%	671,103	111.3%	1,853,329	106.7%
55～59歳	975,621	104.8%	584,268	109.7%	1,559,889	106.6%
60～64歳	719,000	104.5%	501,021	106.5%	1,220,021	105.3%
65～69歳	590,351	96.5%	462,168	100.2%	1,052,519	98.1%
70歳以上	598,793	111.4%	479,195	113.3%	1,077,988	112.2%
計	10,315,429	103.7%	8,638,602	108.8%	18,954,031	106.0%

出典:「旅行通信」19年3月27日号のデータをもとにJTB総合研究所作成

(表2)17年、18年の性年齢別の出国者数と出国率

2017年	上段:出国者数(人) 下段:出国率(%)										
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	
男性	145,327 5.8%	178,802 6.7%	169,069 6.1%	267,967 8.8%	509,235 16.8%	634,137 20.5%	813,366 23.0%	948,629 24.0%	1,143,721 24.0%	1,236,895 26.5%	
女性	141,278 6.0%	175,132 6.9%	175,881 6.7%	416,186 14.4%	1,014,089 35.2%	887,620 30.0%	742,957 21.7%	616,856 16.1%	633,349 13.7%	646,995 14.2%	
男女計	286,605 5.9%	353,934 6.8%	344,950 6.4%	684,153 11.5%	1,523,324 25.8%	1,521,757 25.1%	1,556,323 22.4%	1,565,485 20.1%	1,777,070 18.9%	1,883,890 20.4%	
	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	計					
男性	1,134,617 28.6%	930,707 25.0%	687,762 17.7%	611,509 12.5%	537,471 5.3%	9,949,214 16.4%					
女性	602,702 15.4%	532,407 14.2%	470,360 11.8%	461,263 8.9%	423,003 2.9%	7,940,078 12.4%					
男女計	1,737,319 22.0%	1,463,114 19.6%	1,158,122 14.7%	1,072,772 10.6%	960,474 3.9%	17,889,292 14.3%					

2018年	上段: 出国者数(人)										
	下段: 出国率(%)										
	0~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	
男性	150,096 6.1%	188,118 7.1%	183,701 6.7%	294,901 9.8%	561,928 18.4%	670,346 22.1%	822,831 23.9%	963,244 25.0%	1,144,380 24.8%	1,269,893 26.6%	
女性	146,169 6.2%	184,859 7.4%	198,587 7.6%	478,240 16.8%	1,171,455 40.5%	977,485 33.6%	772,000 23.2%	646,082 17.4%	657,435 14.8%	708,535 15.3%	
男女計	296,265 6.2%	372,977 7.2%	382,288 7.1%	773,141 13.2%	1,733,383 29.2%	1,647,831 27.7%	1,594,831 23.6%	1,609,326 21.3%	1,801,815 19.9%	1,978,428 21.0%	
	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上	計					
男性	1,182,226 28.9%	975,621 25.9%	719,000 19.2%	590,351 12.8%	598,793 5.6%	10,315,429 17.0%					
女性	671,103 16.7%	584,268 15.5%	501,021 13.0%	462,168 9.4%	479,185 3.2%	8,638,602 13.5%					
男女計	1,853,329 22.9%	1,559,889 20.7%	1,220,021 16.1%	1,052,519 11.1%	1,077,988 4.2%	18,954,031 15.3%					

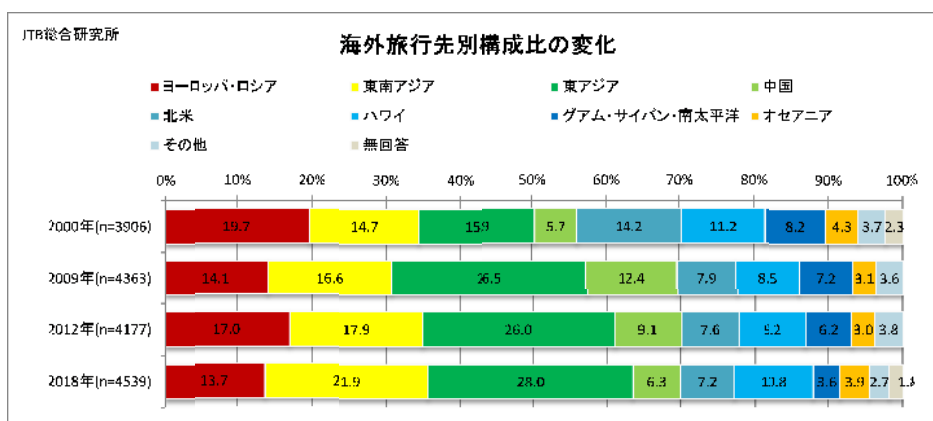
出典: 17年 性年齢別出国率の推移(資料: 法務省「出入国管理統計」/総務省統計局「10月1日現在推計人口」)

18年「旅行通信」2019年3月27日号「表1」と総務省統計局「10月1日現在推計人口」より算出

3. 旅行先の構成比は、東アジアへ大きくシフト(2018年28%、2000年15.9%)。ハワイは変わらず人気の10.8%

旅行先別の構成比の変化を海外旅行実態調査から見てみます。00年当時はヨーロッパ・ロシアが19.7%と最も割合が高く、東アジア(韓国、台湾、香港・マカオ)は15.9%、東南アジア(シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン)は14.7%でした。18年は東アジアが28.0%と最も多い旅行先となり、東南アジアも21.9%と伸び、ヨーロッパ・ロシアは13.7%と大きく減少しました。この背景には、日本とアジア各都市を結ぶLCCの普及したこと、韓流“ブーム”の始まりと“日常”への定着、ウェブによる予約の簡便化などが考えられます。18年は00年と比べ述べ実質海外旅行者数は176万人増加したと推計できますが、アジアへの旅行が物理的にも精神的にも気軽になったことが旅行者の増加の後押しをしたとも考えられます。(図3)

(図3) 20年間の日本人の海外旅行先の変化



* 東アジア: 韓国、台湾、香港・マカオ 東南アジア: シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン

出典: 海外旅行実態調査(JTB 総合研究所)より * 業務渡航含む

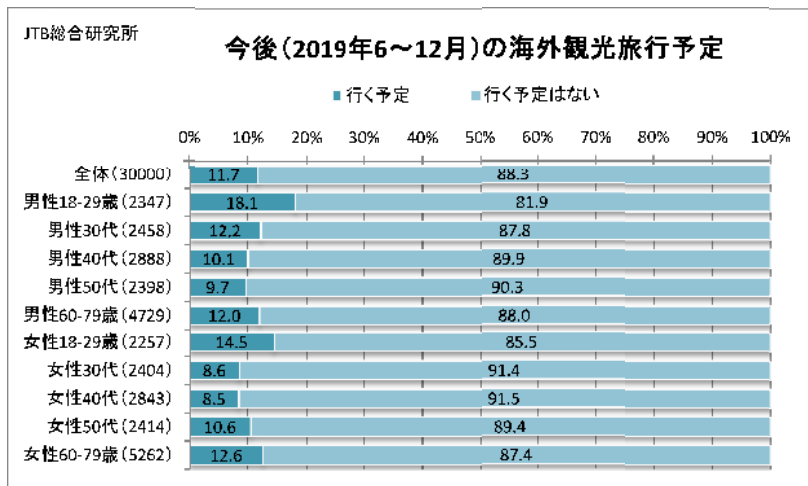
4. 18年および19年1月~6月に海外観光旅行を経験した人ほど、年内に再び海外観光旅行をしたい意向が高い 年内に海外旅行をしない理由は、「家計に余裕がない」、「行きたい気分ではない」、「家を空けられない」

スクリーニング調査で、今後の年内の海外観光旅行の意向を聞きました。19年6月以降(調査期間後)に海外旅行に行く予定の人は全体の11.7%でした。最も意向が高かったのは18~29歳男性の18.1%、18~29歳女性が14.5%と続き、若い世代が積極的なのが分かります(図4)。今後年内に旅行に行く予定と答えた人の18年および19年1~6月の旅行経験を調べたところ、「18年も行き、既に19年も旅行した」人が旅行予定者の38.9%

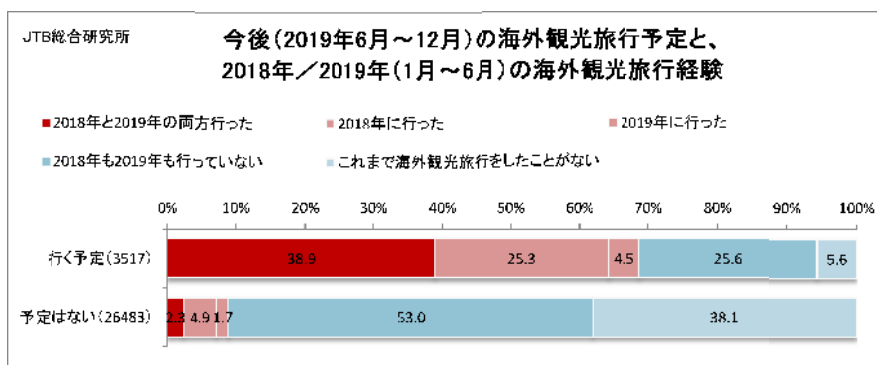
を占め、「18年に旅行した」人は25.3%、「18年は行かなかったが19年に既に旅行した」人は4.5%と、より頻繁に旅行をしている人の方が意向の高い結果となりました。一方、「年内に海外観光旅行には行かない」と答えた人の18年および19年1～6月の旅行経験を調べたところ、91.1%の人がこの期間に旅行していないことが分かりました（図5）。

今後年内に海外観光旅行に行かない理由は、全体では「家計に余裕がない」が、最も高い結果となりました（39.4%）。「家族やペットなどの世話で家が空けられない」は、30代以上の女性で多くなり、子育てなどで、この年代から家をあけにくくなる様子が推察できます（図6）。

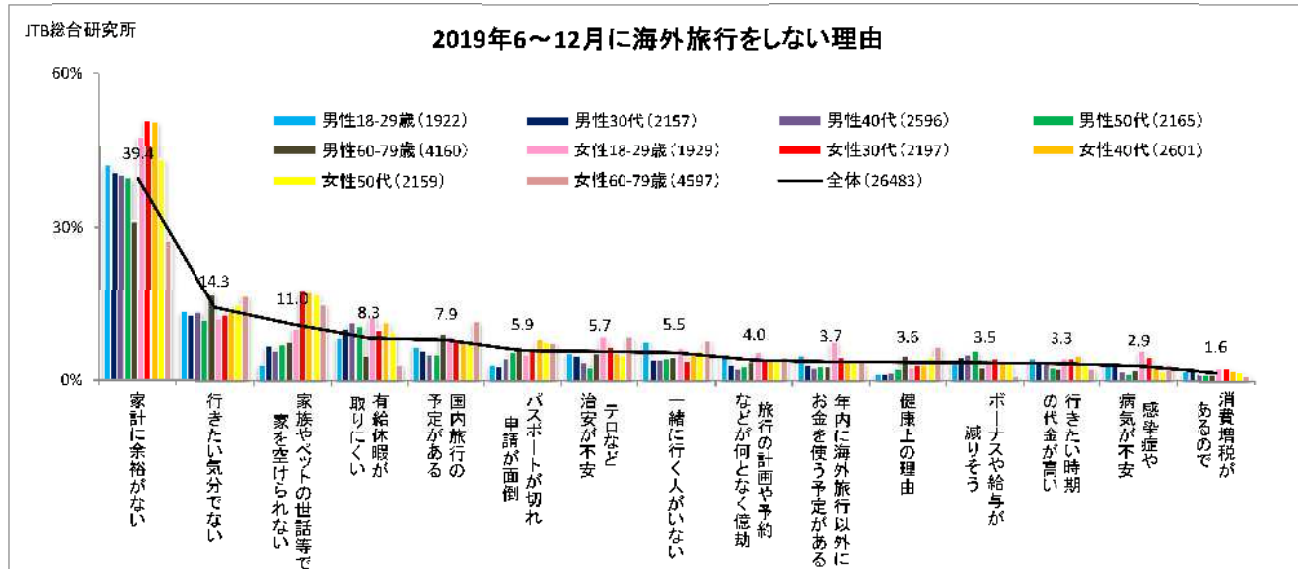
（図4）今後（19年6月～12月）の海外観光旅行予定（単一回答）



（図5）今後（19年6月～12月）海外観光旅行へ行く予定の人の海外観光旅行経験（単一回答）



（図6）19年6～12月に海外旅行をしない理由（複数回答）



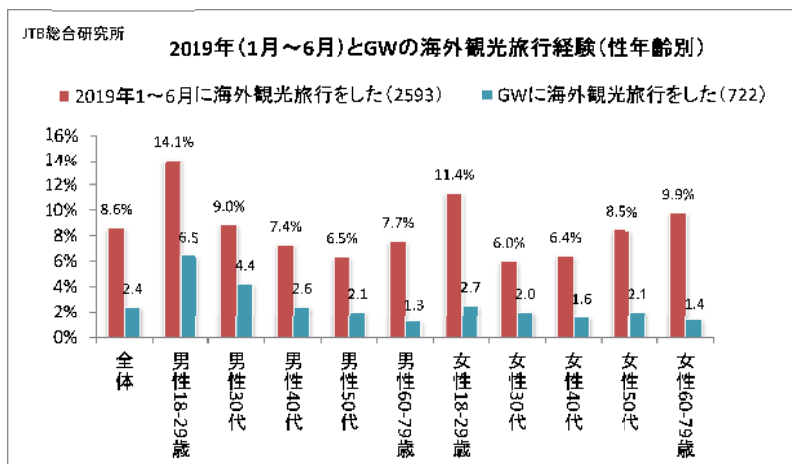
5. 今年のGWに海外観光旅行をした人の年内の海外観光旅行の意向は77.6%。GWに旅行した人の方が今年1～6月に旅行した人より年内の旅行意欲が高い

今年のゴールデンウィーク（GW）は10連休でした。旅行代金の高いGWを利用して出かけた人の今後年内の意向はどうなのでしょう。今年のGWに海外観光旅行に出かけた人はスクリーニング調査対象者全体の2.4%でした。性年代別では、18～29歳男性の出かけた割合が最も高く（6.5%）、30代男性（4.4%）、18～29歳女性（2.7%）と続きました。今年のGWに海外観光旅行に出かけた人のうち、全体の77.6%が年内に再び海外旅行に出かけると回答し、特に18～29歳男性は86.8%が、また30代男性は85.0%が年内に旅行をすると回答しました。

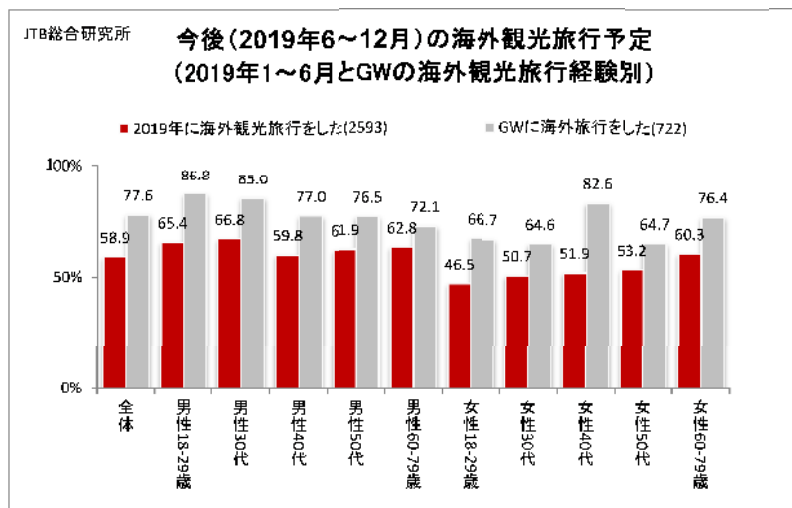
ちなみに、時期を問わず今年1～6月中までに海外旅行をした人は全体の8.6%で、行った人のうち58.9%が年内に海外に出かけると回答しました。性年代別では18～29歳男性の既に旅行した割合が最も高く（14.1%）、そのうちの65.4%が年内の意向がありました。シニア層（60～79歳）も、今年既に海外観光旅行をした割合が高い方ですが、年内の意向も比較的高く、今後ピークを避け、再び海外旅行する可能性があると考えられます。

以上の結果から、旅行代金が高いGWに出かけた人の年内の旅行意向は、時期を問わず既に1～6月に旅行した人より高い傾向が見られました。旅行会社各社の夏の旅行が好調と報道される一方で、GWの反動も懸念されていますが、実際ですでに旅行している人ほど年内の旅行意向が高いことが分かり、「今年旅行したから年内はもう行かない」は大きく懸念するほどではないと思われま（図7～8）。

(図7) 19年1～6月とGWに海外観光旅行に出かけた人の割合(単一回答)



(図8) 19年(1月～6月)とGWに海外観光旅行をした人の今後の海外旅行予定(単一回答)



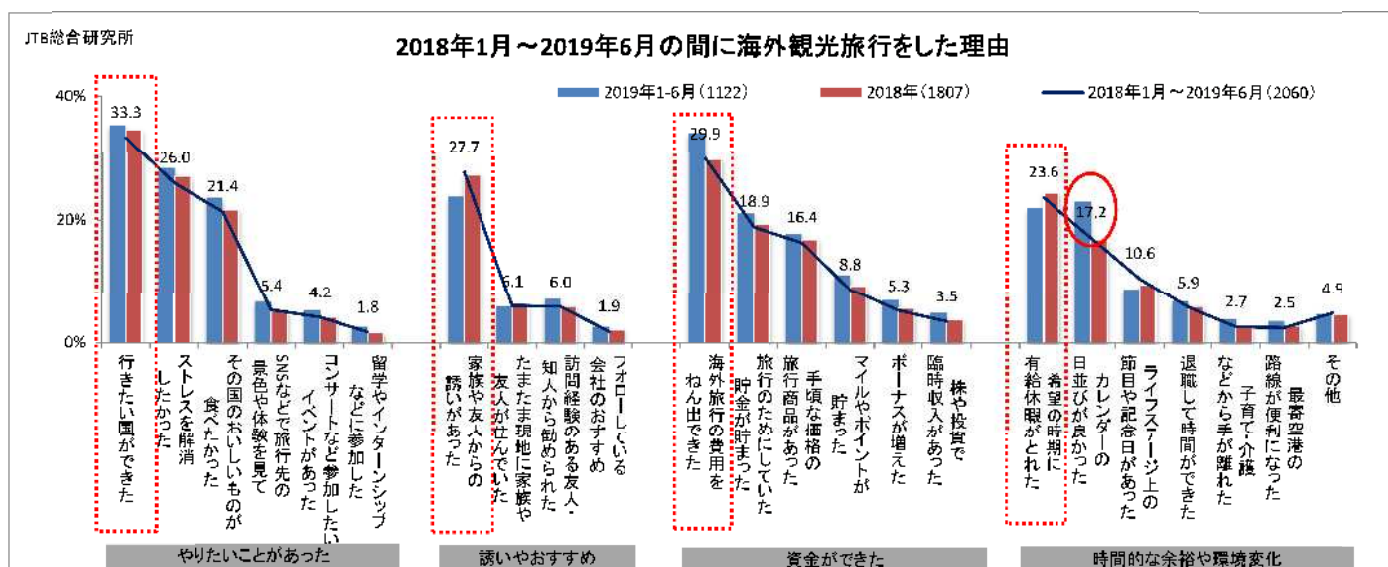
【直近の海外観光旅行(18年1月～19年6月)の実態】

6. 旅行の話題が増え、“誘ったり誘われたり”する機会の増加が18年と19年(1～6月)の海外観光旅行を後押し

では、18年1月以降海外旅行をした人は、どのような理由で海外観光旅行に出かけたのでしょうか。全体では、「行きたい国ができた(33.3%)」が最も多く、「海外旅行の費用をねん出できた(29.9%)」、「家族や友人からの誘いがあった(27.7%)」、「希望の時期に有給休暇が取れた(23.6%)」が続きました。当社の過去の調査でも、海外旅行者数が増加する局面では、身の回りに話題が増え、口コミに触発されたり、「誘ったり誘われたり」という機会が増えることによって、普段あまり海外旅行に行かない「浮動層」の動きが良くなることがわかってきましたが、18年、19年の海外観光旅行においても、同様の現象が起きていると考えられます。また、労働環境が引き続き好調であることや、働き方改革に伴って連続した有給休暇の取得を奨励する企業も増えるなど、比較的、海外観光旅行へ出かけやすい環境だったのではないのでしょうか。

18年と19年(1月～6月)の違いをみてみると、19年では、「カレンダーの日並びが良かった」が最も割合が増えました。やはりGWが10連休だったことは、海外観光旅行へ出かける理由として大きかったと考えられます。また、「家族や友人からの誘いがあった」はやや減少していますが、「訪問経験のある友人・知人から勧められた」や「SNSなどで旅行先の景色や体験を見て」などは増加傾向にあり、身の回りの情報が引き金となる状況は継続しているようです(図9)。

(図9)18年1月～19年6月に海外観光旅行をした理由(複数回答)



7. 購入した旅行商品は「航空券やホテルを別々に予約・購入(36.2%)」、「スケルトンツアー送迎なし(17.9%)」、

購入先は「旅行会社のサイト(21.5%)」、「オンライン専門の宿泊・旅行予約サイト(20.5%)」、「旅行会社店舗(14.1%)」

次に旅行の内容を知るために、直近の海外観光旅行について聞きました。同行者の全体で最も多かったのは「配偶者、恋人など(51.8%)」で、「友人(22.3%)」が続きました。18～29歳および30代女性は「親」も多く、逆に50代女性および60代以上の女性の同行者は「19歳以上の子供」が他の世代に比べて多い結果となりました。一人旅は男性に多く、18～29歳男性は15.0%の一方、18～29歳女性は5.8%でした(図10)。

旅行費用の支払いについては全体では「自分」が64.9%でしたが、男女の差は大きく、40代以下の女性は自分と答えた人は半分に満たず、「同行者(配偶者・恋人、親など)」が多くなる結果となりました(図11)。

どのような形態の旅行商品を購入しているかをみると、全体では多い順から「航空券やホテルを別々に予約・購入(36.2%)」、「スケルトンツアー送迎なし(17.9%)」、「スケルトンツアー送迎あり(15.8%)」でした。「航空券やホテルを別々に予約・購入」は40代、50代男性に多く見られ、ビジネス出張の経験から個人旅行に慣れていると考えられます。60歳以上に多い添乗員付きツアーは50代から激減します。前年との比較は全体で